

平成 26 年 10 月 31 日

各 位

会 社 名 セガサミーホールディングス株式会社
代 表 者 名 代表取締役会長兼社長
里 見 治
(コード番号 6460 東証第一部)
問 合 せ 先 執行役員グループ代表室長
菊 地 誠 一 郎
(電話番号 03-6215-9955)

第 2 四半期業績予想との差異、通期業績予想の修正
及びグループ構造改革に向けた取り組み状況に関するお知らせ

平成 26 年 8 月 29 日に公表いたしました平成 27 年 3 月期第 2 四半期（累計）連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、平成 26 年 5 月 9 日に公表いたしました平成 27 年 3 月期（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）の通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 27 年 3 月期第 2 四半期（累計）連結業績予想と実績値の差異
（平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 157,000	百万円 3,000	百万円 3,000	百万円 △1,500	円銭 △6.15
今回発表実績 (B)	154,245	3,452	3,342	△2,079	△8.52
増減額 (B-A)	△2,754	452	342	△579	—
増減率 (%)	△1.8	15.1	11.4	△38.6	—
(ご参考)前年同期実績 (平成 26 年 3 月期第 2 四半期)	162,209	12,398	14,266	11,348	46.76

■ 差異が生じた理由

主に遊技機事業におけるパチンコ遊技機の販売が前回発表を下回ったことから、売上高は下振れましたが、主にアミューズメント機器事業において研究開発費の計上が第 3 四半期以降となったことから、営業利益、経常利益は前回発表を上回りました。一方で、営業利益、経常利益が上振れた影響により、税金費用が増加したことから、四半期純利益は前回発表を下回る結果となりました。

2. 平成 27 年 3 月期通期連結業績予想の修正（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 450,000	百万円 35,000	百万円 35,000	百万円 21,000	円銭 86.21
今回発表予想 (B)	370,000	18,000	17,000	4,000	16.40
増減額 (B-A)	△80,000	△17,000	△18,000	△17,000	—
増減率 (%)	△17.8%	△48.6%	△51.4%	△81.0%	—
(ご参考) 前期実績 (平成 26 年 3 月期)	378,011	38,533	40,531	30,721	126.42

■修正の理由

当社グループの収益の柱である遊技機事業においては、製品を販売する際に、「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律」及び関連法令、諸規則に基づき、複数の許認可プロセスを経ることが義務付けられております。

この度、当社子会社であるサミー株式会社及びサミー株式会社の子会社等が加盟しております日本電動式遊技機工業協同組合（略称：日電協）並びに日本遊技機工業組合（略称：日工組）より、許認可プロセスの一部である遊技機の型式試験を執り行う一般財団法人保安通信協会（略称：保通協）におけるパチスロ遊技機の型式試験方法の運用が変更となる旨の連絡がありました。

試験方法の運用変更は平成 26 年 9 月 16 日より適用されており、その影響として、第 3 四半期以降において販売を予定していた一部パチスロタイトルの仕様及び販売スケジュール等を再検証いたしました。

その結果、パチスロ遊技機の販売台数は期初計画を下回る見通しとなり、当期における年間販売台数を 37.4 万台から 22.2 万台に修正いたします。一方、パチンコ遊技機においては、当第 3 四半期に販売を予定している「ぱちんこCR北斗の拳6拳王」の受注状況が好調に推移していることなどから、年間販売台数を 25.0 万台から 26.7 万台へ修正いたします。

加えて、アミューズメント機器事業、アミューズメント施設事業、コンシューマ事業のうちパッケージ分野及び玩具分野においても厳しい事業環境の影響を受け、業績は期初計画を下回る見通しとなりました。

以上の結果、通期連結売上高 3,700 億円（前回発表値と比較して 800 億円の減少）、営業利益 180 億円（前回発表値と比較して 170 億円の減少）、経常利益 170 億円（前回発表値と比較して 180 億円の減少）、当期純利益 40 億円（前回発表値と比較して 170 億円の減少）となる見込みです。

3. グループ構造改革に向けた取り組み状況について

平成 26 年 5 月 9 日に公表いたしました、グループ構造改革本部の設置以降、様々な検討を重ねておりますが、本日までに下記の施策に関する方針を決定いたしました。

■3 事業グループへの再編

平成 27 年 4 月を目途に、傘下の事業会社を以下の 3 事業グループに再編いたします。

- ①サミーを中心とする遊技機事業
- ②セガのネットワークゲーム事業を中核とするエンタテインメントコンテンツ事業
- ③ホテルやゴルフ、施設事業等を展開するリゾート事業

各事業グループにおいては、意思決定の迅速化、重複する機能の効率化を進め、経営資源を適切に投入できる体制を構築し、事業環境の変化に対応しながら経営効率を高めてまいります。

■収益性の抜本的改善の取り組み

持続的に利益を創出できる企業として当社グループを再成長軌道に乗せるためには、あらゆる手段を講じて、既存事業の立て直しを果たすことが不可避と判断し、平成 28 年 3 月期以降、

不採算事業を中心に人件費を含む固定費をグループ全体で 60 億円削減する方針です。

■株式会社セガ構造改革担当に関する人事

上記の施策のうち、株式会社セガにおける構造改革を速やかに実行するため、新たな体制として同社取締役である里見治紀が新たに代表取締役副社長(構造改革担当)に就任いたします。詳細につきましては平成 26 年 10 月 31 日に公表いたしました「当社子会社(株式会社セガ)の代表取締役の異動に関するお知らせ」をご参照下さい。

4. 今後の見通しについて

グループ構造改革の実施策につきましては上記以外にも引き続き検討を続けてまいります。今後新たに決定した施策及び構造改革の実行に伴う費用、業績に与える影響につきましては、確定した時点で公表してまいります。

※ 上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上